



Social Welfare Corporation

KUJIRA

発行日: 令和6年6月29日

作成者: 看護師

ほけんだより 7月号

✧ 夏に多い皮膚トラブル

今年も暑い夏がやってきました。乳児の皮膚は何もしなくてもみずみずしく見えますが、肌の一番外側の表皮の暑さは大人の約半分しかなく、皮膚のバリア機能が未熟で非常に繊細です。そのため外からの刺激を受けやすく、暑い季節は汗や紫外線などの原因で皮膚トラブルが増えます。放っておくと痒みから掻きこわして、とびひ(伝染性膿痂疹)などの感染症につながる場合があります。

✧ 皮膚トラブル予防と対応のポイント

あせも

汗腺に汗が詰まり皮膚が炎症を起こした状態です。皮膚が擦れ合う部位に多く発症します。こまめに着替え、汗を拭く、洗い流すが予防にもケアにもつながります。

虫刺され

虫に刺されやすい子は、外出用に薄手の上着や長ズボンを着用し、肌の露出をできるだけ少なく予防します。虫よけスプレーも効果的です。特にスズメバチに刺されると、命にかかわるほどのショック症状を起こすので、救急車を呼ぶか、早急に受診を！

おむつかぶれ

蒸れてふやけた皮膚が傷つき炎症を起こすことです。股やお尻、陰部が真っ赤にただれたり、ブツブツができ痛がります。オムツをまめに交換し通気性の良いオムツの使用を！

✧ 夏の感染症

夏に流行しやすい感染症は、3 大夏風邪といわれる「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱(プール熱)」です。主に、子ども同士であそんでる中で、よだれのついた手やおもちゃが触れ合うことで感染します。これらの夏風邪の特徴は、口の中や体に水疱ができたり、発熱したり、のどの痛みなどの症状が現れます。感染対策のためには、ウイルスを体内に入り込ませないよう、手洗いを徹底しましよ

✧ 夏の感染症にかかった場合の登園の目安

☆手足口病

熱がなく、元気がある。熱が下がって1日経過し、口の痛みの症状が落ち着いて、普通の食事がとれること。

☆ヘルパンギーナ

熱が下がって1日経過し、口やのどの痛みの症状が落ち着いて、普通の食事がとれること。

☆咽頭結膜熱

熱が下がって2日経過し、のどの痛みがなく、状態が落ち着いている。

以上の感染症にかかった場合の登園は、保育所における感染症ガイドラインにより医師の診断を受け、保護者が記入する登園届が必要となります。